

平成 28 年 志摩市内企業の景気状況アンケート調査結果について

1. 調査の目的

近年、事業者の身近な存在である商工会の経営指導員等による伴走型の支援の重要度が増してきている。小規模事業者の多くは、「経営計画書」を持たない、手探りの経営を行っているのが現状であると思われる。事業者が日々の成り行き経営から脱却し、自ら「経営計画」を策定して、販路開拓や売上拡大等への活動を展開することが重要であり、支援者にはその活動をきめ細かく支援していくことが一層求められている。このため、本アンケート調査を実施し、この結果に基づき、各企業に適した支援に資するものである。

2. アンケート調査

アンケート調査実施方法等

★調査日時：平成 28 年 9 月 27 日から 10 月 20 日までの間

★調査対象：建設業、製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、卸売・売業、金融・保険業、不動産業、飲食店・宿泊業、医療・福祉、教育・学習支援業、その他【農業、林業、漁業、郵便業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、娯楽業、生活関連サービス業、複合サービス業、サービス業（他に分類されないもの）】
計 2231 社

★調査方法：志摩市内の全小規模事業者（会員・会員外）に対して郵送によるアンケート調査。

★アンケート回収数：465 通

●回答事業者

最も多かった業種は“卸売・小売業”の 48%、続いて“その他生活関連サービス業” 37%、“飲食店・宿泊業” 31%、“建設業” 29%、“製造業” 21%となっており、その他の業種は全て一桁台の構成比である。

●その他

小規模事業者の業況感等について、アンケート調査を実施する。なお、調査結果の構成比は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%と一致しない場合がある。また、評価項目により構成値の小数点以下の数値が一致しない場合がある。

アンケート調査集計分析結果内容

(1) アンケート回答企業について

●企業形態：“個人企業（自営業）” 67.3%、“法人” 30.8% “不明” 1.9%→志摩市の小規模事業者 2118 社のうち、個人企業（自営業）が 7 割近くを占め、法人は 3 割程度。

●従業員規模別の順位：1 位：2-3 人 38.9%、2 位：1 人 35.3%、3 位：4-5 人 8.4%、4 位：不明 6.2%、5 位：10 人以上 5.2%、6 位：6-7 人 3.9%、7 位：8-9 人 2.2%。

★1 人+2-3 人=74.2%→小規模の従業員数の企業が約 4 分の 3 を占める。

●「事業承継・廃業」に関する意向の上位：

1 位：“未定” 34.0%、2 位：“事業を廃業予定” 29.5%、3 位：“後継者（親族以外も含む）はいる” 25.4%
・・・景気動向により、“未定”の 34.0%→“事業を廃業予定”となる可能性がある。

(2) 志摩市の地域経済景気状況（平成 28 年 9 月現在）

●志摩市全体平均：“悪い” 37.6%→“どちらともいえない” 32.9%→“やや悪い” 21.5%、“不明” 4.3%、“やや良い” 3.4%、“良い” 0.2%。

★「景気が良い」（“良い” + “やや良い”）3.6%。

★「景気が悪い」（“悪い” + “やや悪い”）59.1%＝約 6 割にも達する評価

●地域別景気感ワースト順位：旧浜島町 65.5%（「景気が良い」0%）→旧志摩町 64.7%→旧磯部町 63.9%→旧大王町 61.9%
→（志摩市全体平均）59.1%→旧阿児町 55.5%。

●“悪い”及び“やや悪い”と回答した理由：「人口減と高齢化」「若者の流出」「少子化」「公共事業の削減」「消費者の節約傾向」及び「大型店の進出」や「チェーン店の進出」・・・。

*人口動向については最後に添付。

志摩市地域経済の景気感

地域区分	回答数	良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	悪い	不明
旧阿児町	194	0.0%	4.7%	35.2%	24.9%	30.6%	5.2%
旧大王町	71	0.0%	4.2%	32.4%	21.1%	40.8%	1.4%
旧志摩町	85	0.0%	2.4%	29.4%	12.9%	51.8%	3.5%
旧浜島町	36	0.0%	0.0%	36.1%	19.4%	36.1%	8.3%
旧磯部町	71	0.0%	1.4%	30.6%	25.0%	38.9%	2.8%
不明	8	12.5%	12.5%	25.0%	12.5%	25.0%	12.5%
志摩市全体	465	0.2%	3.4%	32.9%	21.5%	37.6%	4.3%

1年後の志摩市地域経済の景気感の業種別予測

★志摩市全体平均：「どちらともいえない」34.4%→「悪い」24.1%→「わからない」19.1%→「やや悪い」10.8%→「不明」6.2%→「やや良い」4.9%→「良い」0.4%。

★「景気が良い」5.3%。「景気が悪い」34.9%。「予測できない」53.5%。

●主要事業の「景気が悪い」予測：「その他生活関連サービス業等」40.8%、「卸売・小売業」37.5%、「製造業」34.1%、「建設業」31.5%、「飲食店・宿泊業」28.4%

●“やや悪い”及び“悪い”と回答した理由：人口減少が最も大きな要因で、中でも若者の流出、経済不況及び地元のお客の高齢化が理由として挙げられている。

業種からみた個別企業の業況状況（平成28年9月現在）

★志摩市全体平均：「どちらともいえない」34.2%→「悪い」29.2%→「やや悪い」19.4%→「やや良い」11.6%→「不明」4.5%→「良い」1.1%

★「景気が良い」12.7%、「景気が悪い」48.6%、「予測できない」53.5%→「景気が良い」と「景気が悪い」の差は、-35.9ポイント。

●主要業種の「景気が悪い」構成比：「卸売・小売業」55.0%、「その他生活関連サービス業等」52.0%、「製造業」46.8%、「飲食店・宿泊業」46.0%、「建設業」40.0%

●“やや悪い”及び“悪い”と回答した理由：人口減少、若者の流出、市場の成熟化による顧客ニーズの多様化、公共事業等の減少、経済不況、大型店の進出や地元のお客の高齢化等。

売上動向「平成27年8月時点と平成28年8月時点」の比較

★志摩市全体平均：「売上が増加」15.0%。「売上が減少」39.6%。「売上が増加」と「売上が減少」の差-24.6ポイント。

●売上動向が悪い（売上が減少）地域の順位：旧志摩町45.9%→旧浜島町41.6%→旧阿児町39.6%→旧磯部町36.6%→旧大王町33.8%。

●「売上が増加」と「売上が減少」のマイナス差の大きい順：旧志摩町-30.6ポイント→旧浜島町-27.7ポイント→旧大王町-24.0ポイント→旧阿児町-22.2ポイント→旧磯部町-21.1ポイント。

業種別「平成27年8月時点と平成28年8月時点」売上比較

●主要業種の売上動向が悪い（売上が減少）率：「卸売・小売業」45.8%、「飲食店・宿泊業」43.3%、「その他生活関連サービス業等」37.7%、「建設業」35.7%、「製造業」34.0%
★順位は、不況企業の多い業種を示している。

生産・出荷量動向「平成27年8月時点と平成28年8月時点」との売上比較

★志摩市全体平均：「生産・出荷量が増加」（“増加した”＋“やや増加した”）13.4%。「生産・出荷量が減少」（“減少した”＋“やや減少した”）30.8%。「生産・出荷量が増加」と「生産・出荷量が減少」の差-17.4ポイント。

●生産・出荷量動向が悪い（生産・出荷量が減少）地域順位：旧志摩町45.9%→旧浜島町41.6%→旧磯部町36.6%→旧大王町33.8%→旧阿児町19.1%。

●「生産・出荷量が減少した」主要業種：「製造業」27.6%、「卸売・小売業」25.0%、「建設業」17.1%、「飲食店・宿泊業」14.9%、「その他生活関連サービス業等」4.1%

仕入単価動向「平成27年8月時点と平成28年8月時点」比較

★志摩市全体平均：「仕入単価が高くなった」（“増加した”＋“やや増加した”）21.7%。「仕入単価が安くなった」（“減少した”＋“やや減少した”）13.7%。「仕入単価が高くなった」と「仕入単価が安くなった」の差+8.0ポイント。

●「仕入単価が高くなった」地域別順位：旧浜島町 30.5%→旧阿児町 21.7%→旧志摩町 20.0%→旧大王町及び旧磯部町 19.7%

●「仕入単価が高くなった」主要業種：「製造業」42.6%、「飲食店・宿泊業」29.7%、「建設業」18.5%、「卸売・小売業」25.0%、「その他生活関連サービス業等」12.2%

販売単価動向「平成27年8月時点と平成28年8月時点」比較

★志摩市全体平均：「販売単価が高くなった」（“増加した”＋“やや増加した”）8.4%。「販売単価が安くなった」（“減少した”＋“やや減少した”）15.7%。「販売単価が高くなった」と「販売単価が安くなった」の差-7.3ポイント。

●「販売単価が高くなった」地域別順位：旧浜島町 11.1%→旧磯部町 9.9%→旧大王町 8.4%→旧志摩町 8.3%→旧阿児町 6.7%

●「販売単価が高くなった」主要業種：「製造業」17.1%、「卸売・小売業」13.4%、「建設業」5.7%、「飲食店・宿泊業」5.4%、「その他生活関連サービス業等」4.1%

設備投資意欲

★志摩市「全体平均」：「設備投資意欲が高まった」（“高まった”＋“やや高まった”）10.3%。

「設備投資意欲が後退した」（“後退した”＋“やや後退した”）23.9%。「設備投資意欲が後退した」と「設備投資意欲が高まった」との差+13.6ポイント。「わからない」7.7%。

●設備投資意欲が後退した地域の順位：旧大王町 35.2%→旧浜島町 30.5%→旧磯部町 25.4%→旧阿児町 20.6%→旧志摩町 18.9%→不明。

●「設備投資意欲が後退した」と「設備投資意欲が高まった」とのプラス差の大きい地域順位：旧大王町+28.2ポイント→旧磯部町+21.2ポイント→旧浜島町+11.1ポイント→旧阿児町+10.3ポイント→旧志摩町+4.8ポイント→不明。

現在の取引金融機関の融資姿勢

★志摩市全体平均：「融資姿勢が積極的」（“積極的”＋“やや積極的”）13.4%。

「融資姿勢が消極的」（“消極的”＋“やや消極的”）10.8%

「融資姿勢が消極的」と「融資姿勢が積極的」との差+2.6ポイント。

☆“現状維持”の58.1%が最も大きい。

●「融資姿勢が積極的」主要業種の順位：「製造業」17.1%、「卸売・小売業」13.3%、「建設業」12.8%→「その他生活関連サービス業等」7.1%、「飲食店・宿泊業」6.8%

伊勢志摩サミットの波及経済効果と地域の活性化

★志摩市全体平均：

「波及経済効果があった」〈「波及効果があった」（“ある”＋と“少しある”）〉30.1%。

「波及経済効果がなかった」〈「波及効果がない」（“ない”＋と“あまりない”）〉37.9%。

「波及経済効果があった」と「波及経済効果がなかった」との差-7.8ポイント。

☆“どちらともいえない”の26.5%が最も大きい。

●伊勢志摩サミットによる「波及経済効果があった」地域の順位：

旧阿児町 37.6%→旧浜島町 27.8%→旧大王町及び旧磯部町 25.3%→旧志摩町 22.3%

●「波及経済効果があった」企業が多かった主要業種：

金融・保険業+33.4ポイント→医療・福祉+16.7ポイント→飲食店・宿泊業+2.6ポイント。

★その他生活関連サービス業等の業種は、「波及経済効果がなかった」→志摩市の小規模事業者は、地域密着型（地域内需要型）企業が主企業である。旧阿児町においても、波及経済効果があった業種は、飲食店・宿泊業のみであり、その他生活関連サービス業等の業種は、「波及経済効果がなかった」。

◆伊勢志摩サミットの波及経済効果“あまりない”および“ない”と回答した理由：小規模事業者はサミットに関係がない地域密着型（地域内需要型）企業であるという趣旨の回答と集客イベントと同様に報道等により期待した結果、客数が期待ほどではなかったという趣旨の回答が多くを占めている。

個別企業（自社）のサミット効果によるサミット前・後の売上への影響

A. 【対前月との比較（平成28年5月と平成28年6月の比較）】

- 全体平均：「売上が増加」（“増加した”＋“やや増加した”）19.4%と「売上が減少」（“減少した”＋“やや減少した”）47.5%→「売上が減少」＋28.1ポイント
- 伊勢志摩サミットによる売上への「波及経済効果がなかった」順位の地域：旧浜島町-19.3ポイント→旧志摩町-17.6ポイント→旧大王町-15.6ポイント→旧磯部町-15.5ポイント→旧阿児町-11.4ポイント
- ★伊勢志摩サミットの波及経済効果が最も大きかった旧阿児町も現実には売上減少となっている。
- ★志摩市全体平均では、“減少した”の29.7%が最も大きい。

B. 【対前年との比較（平成27年6月と平成28年6月の比較）】

- 志摩市全体平均：「売上が増加」8.8%－「売上が減少」25.8%＝-17.0ポイント（売上が減少）
- 伊勢志摩サミットによる売上への「波及経済効果がなかった」地域の順位：旧浜島町-30.6ポイント→旧志摩町-22.4ポイント→旧大王町-19.7ポイント→旧磯部町-18.4ポイント→旧阿児町-10.8ポイント
- 主要業種別企業（自社）のサミット効果によるサミット前・後の売上への影響：「建設業」-4.3ポイント、「製造業」-8.6ポイント、「卸売・小売業」-21.7ポイント、「飲食店・宿泊業」-12.2ポイント、「その他生活関連サービス業等」-16.3ポイント
- ★個別企業には伊勢志摩サミットの「波及経済効果がなかった」⇔地域密着型（地域内需要産業）。

まとめ

以上の調査の結果、志摩市に立地する小規模事業者の持続発展のためには、安定的需要等が必要であるが、アンケートでの指摘のとおり「人口減少により顧客の減少」「仕入単価の上昇」及び「販売単価の低下」といった環境変化により、どの業種の企業も、景気は回復していない状況である。現状のままでは、一部の企業を除いた他の多くの企業が自らの「売上」を減少させ、また「事業の将来性」が見いだせず、最悪は廃業に至ることで、志摩市地域経済の衰退につながっていくものと推測できる。

特に、需要面からみると、志摩市の人口は、平成12年と平成28年、また平成23年と平成28年とを比較した結果、前者の期間は▲10,065人（▲16%）であり、後者の期間は▲4,343人（▲7.7%）と減少しつづけている。特に、旧阿児町に人口が集中し、前者の期間は+21%増加している。しかし、後者の期間では-3.1%の減少となっている。その他の旧町はいずれも人口減少となっている。この結果、地域住民を主要な顧客対象者としている地域内需要型企業の需要は減少する一方である。このため、志摩市の小規模企業が持続的発展のためには、移住の促進、観光客の誘致、競争優位な特産品の開発と産業の育成、里海文化ライフスタイルの確立による新たな生活環境需要の創出が欠かせないといえるであろう。

志摩市の人口変動

地区名	H12. 10. 1 国調	H23. 9. 30 住基	H28. 9. 30 住基	H28-H12	減少率	H28-H23	減少率
浜島町	7,307	5,120	4,596	-2,711	-37%	-524	-10.2%
大王町	10,085	7,435	6,605	-3,480	-35%	-830	-11.1%
志摩町	16,828	12,612	11,068	-5,760	-34%	-1,544	-12.2%
阿児町	18,327	22,957	22,252	3,925	21%	-705	-3.1%
磯部町	9,868	8,569	7,829	-2,039	-21%	-740	-8.6%
計	62,415	56,693	52,350	-10,065	-16%	-4,343	-7.7%